

第一部
12時30分開場
13時00分開演

狂言
呼声
【よびこゑ】

山本則俊(大蔵流)

能
富士太鼓

現之楽

【ふじだいこうつのがく】
鵜澤久(観世流鏡仙会)



能「富士太鼓」
鵜澤久・鵜澤光
(撮影:前島写真店)

第120回

川崎市定期能

2020年9月21日(月・祝) 会場:川崎能楽堂

入場料:各部 4,000円(全席指定)

U25 3,000円

※脇正面、中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方。
購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

第二部

15時30分開場
16時00分開演

※例年と時間が異なります。

狂言

悪坊

【あくぼうし】

山本則秀(大蔵流)

能

女郎花

【おみなめし】

浅見真州(観世流鏡仙会)



能「女郎花」浅見真州
(撮影:吉越スタジオ)

【チケット発売日】

2020年8月28日(金)午前9時より川崎能楽堂 電話にて発売(初日は電話のみ。先着順) *残券があれば、翌日以降に川崎能楽堂窓口でも販売いたします。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、販売方法が例年と異なりますので予めご了承ください。※販売座席につきましては、8月上旬を目途に決定いたします。

※回線混雑の為電話が繋がるまでにお時間をいただく場合がございます。また、ホームページでの販売は行いません。

【チケット取扱・お問合わせ】

川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37 窓口・電話 9:00~17:00(水曜定休日)



主催 公益財団法人 川崎市文化財団 〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階 TEL.044-272-7366 FAX.044-544-9647

後援 「音楽のまち・かわさき」推進協議会

*開演後はお入りいただけない場合がございます。また、新型コロナウイルスの影響により、日時・内容等変更になる場合がございますので予めご了承ください。

定期能をより楽しむための事前講座

演目や能について能楽師が実演つきでわかりやすく解説します。

- ◆日時:2020年9月12日(土)14:00~16:00
- ◆講師:鵜澤久(観世流鏡仙会・シテ方) 中野顕正(日本女子大学学術研究員)
- ◆会場:川崎能楽堂
- ◆料金:無料

*第120回川崎市定期能チケットご購入者が対象となります。 *受講をご希望の方にはチケットご購入の際に整理券をお渡しいたします。

【第一部】13時開演（12時30分開場）

狂言 呼 声

子方富士の娘坂 瞳子
シテ富士の妻 鶴澤 久

能 富士太鼓

ワキ 臣下 野口 能弘
小鼓 田邊 恭資
大鼓 原岡 一之
現之楽

アイ下人 山本 則秀
後見 谷本 健吾 小早川康充 馬野 正基
清水 寛二 地謡 安藤 貴康 西村 高夫
長山 桂三 柴田 稔

シテ太郎冠者 山本 則俊
アド主 山本 則重
アド次郎冠者 若松 隆

狂言 呼 声

主人に暇も乞わずにどこかへ旅に出ている太郎冠者を、主人が次郎冠者を連れて家まで叱りに行きます。家に着いた主人は次郎冠者に太郎冠者を呼びださせますが、主人の用と察した太郎冠者は、居留守を使って出てこようとしません。主人は作り声や、平家節、小歌節、踊り節を使ってかわるがわるに太郎冠者を呼びだそうとしますが…。

能 富士太鼓

現之楽

萩原院に仕える臣下(ワキ)が、宮中の管弦の催しにおける太鼓の役をめぐって浅間と富士という楽人同士が争い、富士が殺害されたと語ります。そこへ不吉な夢を見て夫の身を案じた富士の妻(シテ)とその娘(子方)が上京し、訪ねてきました。臣下は、二人に富士の死を伝え、形見である装束を渡します。嘆き悲しむ妻はそれを身に着け、狂乱し、娘ともども太鼓こそが夫の敵だと太鼓を打ち鳴らします。やがて妻へ夫の霊が乗り移り、楽の舞を舞います。狂乱の心が静まると装束を脱ぎ捨て、太鼓こそ亡き夫の形見であると思つめ、娘と共に故郷へ帰っていきます。

今回の「現之楽」という小書(特殊演出)は、夫(富士)の形見の装束を着ることによって、亡くなった夫の霊が富士の妻(シテ)に乗り移り、(富士が幽霊来るとみえて…)「少し狂いの態になったり、常態に戻つたりと、楽の舞が変化します。まさに「ゆめ」、うつつとなるさまを表現しています。亡き夫の得意とした太鼓を打ち鳴らしつつ、舞っているという意味でシテは太鼓の撥をずっと持ったままで舞います。

【第二部】16時開演（15時30分開場）※例年と時間が異なります。

狂言 悪 坊

ツレ頼風の妻の霊 鶴澤 光
前シテ老人 浅見 真州
後シテ小野頼風の霊

能 女郎花

ワキ旅の僧 野口 能弘
小鼓 田邊 恭資
大鼓 原岡 一之
アイ所の者 山本凜太郎

後見 安藤 貴康 谷本 健吾 柴田 稔
鶴澤 久 地謡 長山 桂三 清水 寛二
馬野 正基 西村 高夫

シテ悪坊 山本 則秀
アド出家 若松 隆
アド宿主 山本凜太郎

狂言 悪 坊

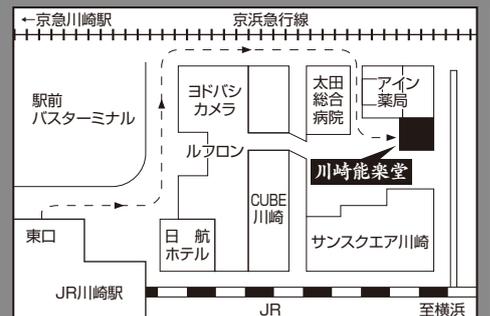
大酒飲み男(シテ)が、旅の僧(アド)の道連れになります。長刀で僧を脅し、自分の定宿に連れ込みます。男が寝入ったすきに、宿の主人(アド)から、男が悪坊という乱暴者だと聞いた僧は、悪坊の小袖や長刀を取り上げ、代わりに自分の衣や傘を残して逃げ去ります。目覚めた悪坊は自分の姿に驚きますが、これを機縁に出家の志を立てます。

能 女郎花

肥後の国、松浦湯より旅に出た僧(ワキ)が石清水八幡宮へ参拝をするため、男山の麓まで訪れると、女郎花が見事に咲いていました。一本手土産に折ろうとすると花守の老人(前シテ)が現れそれを咎めます。二人は古歌を引いて争いますが、僧が男山の女郎花にまつわる古歌を知っていたことから、特別に手折ることを許し、その後男塚・女塚へと案内し、自分は男塚の小野頼風だとほめかし消え去ります。(中入)

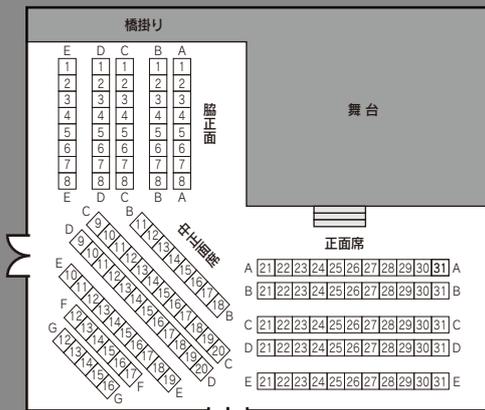
僧が申っていると、頼風の霊(後シテ)とその妻の霊(ツレ)が現れ、夫の不実を知り恨んで女が川に身を投げ死んだこと、その女の塚に生えた女郎花が頼風を避けるように揺れ動くのを悲しみ、頼風は、女の後を追って身を沈めたことなどを語りました。そして、今は共に邪淫の悪鬼に責められていると苦相を見せ、僧に向を頼み消えてゆきます。

川崎能楽堂案内図



川崎能楽堂案内図
JR川崎駅東口より徒歩5分
■アクセス(JR川崎駅まで)品川駅より約9分 横浜駅より約8分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
川崎能楽堂
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
TEL.044-222-7995 FAX.044-222-1995

川崎能楽堂座席表(148席)



※U25券は脇正面席・中正面席のみ選択可。

次回公演のお知らせ

第12回 狂言全集

日時:2020年10月17日(土)14:00開演
演目:「二人大名」山本則俊
「栗焼」山本則重
「船渡聲」山本東次郎
チケット発売日:9月11日(金)より川崎能楽堂にて
発売予定(先着順)

第121回 川崎市定期能
〜観世流梅若会〜

日時:【第1部】2020年12月12日(土)
演目:【第1部】能「橋弁慶」角当行雄(予定)
【第2部】能「夜討曾我」梅若実(予定)

※日時・内容等変更になる場合がございます。
予めご了承ください。